

## た か し

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

## 子供たちとのかかわりの中で

主幹教諭 小室 純子

先日、6年生の算数で、「人口ピラミッド」の学習をしました。1970年と2020年のグラフを見比べていくと話題は「少子高齢化」に。「このままでは、生産人口が減ってしまう」「生産人口より高齢者が多くなってしまう」「将来の日本はどうなるのか・・・」さらに、1人の高齢者を支える生産人口が1.9人というデータが加わり、自分から遠かった問題を自分事として捉えていました。しかし、現在高齢者と言われる人々が生産年齢のときにその当時の高齢者を支え、そのおかげで今の自分たちの生活があるという意見も出てきました。そういう視点でデータを分析し、考察したことが嬉しくて、つい、「私が高齢者になるときには、みんなに支えてもらうことになるのか」という私のつぶやきも聞いてもらいました。

今年度、高四小は創立85周年を迎えました。先日、85周年のお祝いとして代表委員会と6年生が中心となり、「創立85周年記念集会」が行われました。高四小のクイズや6年生による高四小の歴史のプレゼンテーションで盛り上がりました。集会の最後に卒業生代表として、お二人の方をお招きし、インタビュー形式で小学生だった当時の様子を語っていただきました。戦時中の頃と今から40年ほど前の頃のお話をしていただきました。

集会後の授業で、子供たちにインタビューの中で一番心に残ったことを聞いてみました。戦時中、理科室に焼夷弾が落ちて校舎が全焼してしまったことや当時の一番の楽しみが、先生からたまに配られる焼きいもの引換券だということ。また、40年前の児童数が1学年100名ということや、児童館ができたばかりでいつも外で遊んでいたことなどが心に残っていたようでした。子供たちが集会で聞いた話を夢中で話す様子を見て、生の声の大切さを感じました。

焼き芋の引換券の話から当時の子供たちと今の自分たちを比べはじめ、日々の生活の中で当時の子供たちの一番の楽しみが「焼き芋」なんだ・・・。好きなものを食べられない、自分の好きなことができない、どこかへ遊びに行くこともない・・・。さらに、山田さんが戦争中で1・2年生の頃勉強することができなかったという話から、毎日宿題があったり、勉強するのいやだなと思ったりすることがあるけれど、自分たちは幸せなんだという話になりました。当たり前前のことが当たり前前にできる今の自分たちの幸せを再確認することができ、集会がとても有意義なものになりました。

代表委員からの終わりの言葉は、「一番驚いたことは戦争で焼夷弾が理科室に落ち、校舎が全焼したことです。しかし、それを乗り越えて今の高四小があります・・・私たち6年生が1年生のときには80周年をお祝いしました。今の1年生は、90周年をお祝いすることができますね。そして、100周年を超えて高四小の歴史は続いていくでしょう。そのバトンを受け継いでいく一員であることを私は誇りに思います。85年目の歴史は、今ここにいる私たちが作り上げていきます。みんなで協力して最高の高四小にしましょう。」という言葉で締めくくられました。「バトンを受け継いでいくことを誇りに思う」と思いを伝える子、そして、それを受け止める子供たちを見ていて胸が熱くなりました。

子供たちと関わる中で、人の一生のうち、どの人にもその時々役割があり、その役割を次の世代へ引き継ぎ続けてきた結果、今があり、自分が生きている間に誰かに自分の思いを伝えていくこと、誰かと喜びを分かち合うこと、困ったことがあったら誰かと共有してよりよいものを模索していくことを繰り返して人は成長していくのだらうと思います。生きていく上では誰かと何かを共有するということが欠かせないということなのだと感じました。

私たち大人世代が今を生きる子供たちに今できることは何か。同じ大人として保護者や地域の方々と一緒に考え共有していけたら嬉しいです。そして、子供たちのバトンが無事渡されていくことを見届けたいと思います。